

ブランパンが支援する海洋探査にスポットライトを当てた ドキュメンタリー作品、『ラ・ペルーズ海山の謎に挑む』が公開

ブランパンは、ドキュメンタリー作品である『ラ・ペルーズ海山の謎に挑む』の公開を発表いたします。この作品では、海中の生物多様性において極めて重要な役割を果たしている地層である海山の姿を明らかにしています。世界の海中には数万もの海山があると推定されていますが、こうした地層のうちこれまで調査が行われてきたのは数百に過ぎません。ブランパンの支援を受け、ローラン・バレスタ氏は、海洋学者達にもいまだ未知の世界であるラ・ペルーズ海山の謎を解き明かすために、レユニオン島の北西 160 キロに位置する海底の調査に挑みました。

この海山の基部は水深 5 千メートルの海底部分になります。山体沿いに上昇すると、水深はみるみる浅くなっていき、頂上部分は水深数十メートルにまで迫ります。この頂部がラ・ペルーズ海山になります。ラ・ペルーズ海山は、アルプス山脈の最高峰であるモンブランに匹敵する規模を持つ、海中の火山構造体です。この地質学的な特異性は、この海域で定期的に見事な漁を行うレユニオン島のはえなわ漁船の間ではよく知られています。しかしながら、海洋学者にとっては、この海域はいまだに大きな謎に満ちています。

世界中に存在する他の類似の地形と同じように、海中に完全に沈む以前は島であったラ・ペルーズ海山は、インド洋の中心に位置するという固有の条件に起因する形で、生物達の生息域となっています。生き物の避難場所や食糧の供給源としての役割を果たすラ・ペルーズ海山は、隠れ家の密集地帯となっており同時に、絶滅危惧種を含んだ多くの回遊生物の休息地となっています。海山に生息する動植物には多様性や独自性が顕著に見られ、生息・生育する生物種の多くは他の地域にはいない固有種です。ラ・ペルーズ海山は、海洋のエコシステムの均衡に不可欠な役割を担っているのです。ですから、この海域を過剰な資源開発から守ることは重要な課題となります。

2019 年 11 月、ローラン・バレスタ氏は、地元の研究者や彼が率いるゴンベッサ・ダイビングチームのメンバーとともに、ラ・ペルーズ海山の比類なき生物多様性の調査を行い、特徴を分析し、詳細を明らかにするために、探査を実施しました。フランスの生物学者で水中フォトグラファーでもある彼が指揮する、ゴンベッサ調査探検やその他多くの海洋学ミッションの創設パートナーであるブランパンの支援のもと実施されたこの記念碑

的な場所の探検は、偉大な最初の一步を刻みました。すべてのゴンベッサ探査と同様に、この冒険は3つの主な原則を網羅しています。科学的調査を行う、課題を設定したダイビングを実施する、そして過去に見たことがないような写真を撮ることです。

科学上の主な調査課題は、生息域インベントリーの作成と、動植物に関するデータの収集です。観察や写真によるインベントリー作成、生物学・地質学上のサンプリング、さらにカメラやソナーの活用といった技術はすべて、ラ・ペルーズ海山の生物多様性を解明するためにローラン・バレスト氏と彼のチームが採用したものです。

この調査を遂行するために、ダイバー達は複雑なダイビング条件に適応しなければなりませんでした。調査現場は外洋にあるため、強風や、ほぼ永続的に発生する潮流にさらされる海洋環境となります。加えて、ダイビングを外洋で行うことから、海面に近いリーフに引き返すという選択肢はありません。これは、海中でのアセント（浮上）のさいに目印が存在せず、潮の流れに対する防御がないことを意味します。最長潜水時間は、水深60メートルで1時間近く、水深110～140メートルの間では30分に達しました。全体で3時間から5時間をかけて、アセントと減圧を行う過程を毎日実施しました。

ラ・ペルーズ海山の探索によって、貴重で素晴らしい写真の数々を撮影することができました。ドキュメンタリー作品『ラ・ペルーズ海山の謎に挑む』の公開の他にも、今回の学術調査をまとめた科学出版物が、海中で撮影した写真を掲載する形で発行される予定です。また、写真展の開催も企画されています。このプロジェクトを通じて、ローラン・バレスト氏とブランパンは、海洋の生物多様性やエコシステムにおける海山の重要性、およびその環境保全の必要性に対する一般の認知向上を図っています。